

(2) 事業の概要

本事業は大阪市此花区夢洲中一丁目の一部ほかに位置する計画地の土地に、会議施設、展示等施設、劇場、ミュージアム、飲食施設、バスターミナル、フェリーターミナル、宿泊施設、カジノ、駐車場、太陽光発電設備を主要な用途とする建築物等を計画するものである。

対象事業の内容の概略は表 1.2.1 に示すとおりである。

表 1.2.1 事業の概要

項 目	内 容
計 画 地	大阪市此花区夢洲中一丁目の一部ほか
計画地面積	合 計：約 64.2ha（想定）
延床面積の合計	約 848,000 m ²
建築物の最高高さ	約 135m
主 要 用 途	会議施設、展示等施設、劇場、ミュージアム、飲食施設、バスターミナル、フェリーターミナル（係留施設を併設）、宿泊施設、カジノ、駐車場、太陽光発電設備
来場想定者数	年間来場者数：約 1,987 万人、日最大来場者数：約 10 万人
駐 車 台 数	約 3,200 台
想定工事期間	2023 年度春～夏頃から 2029 年度夏～秋頃
想定供用時期	2029 年度秋～冬頃

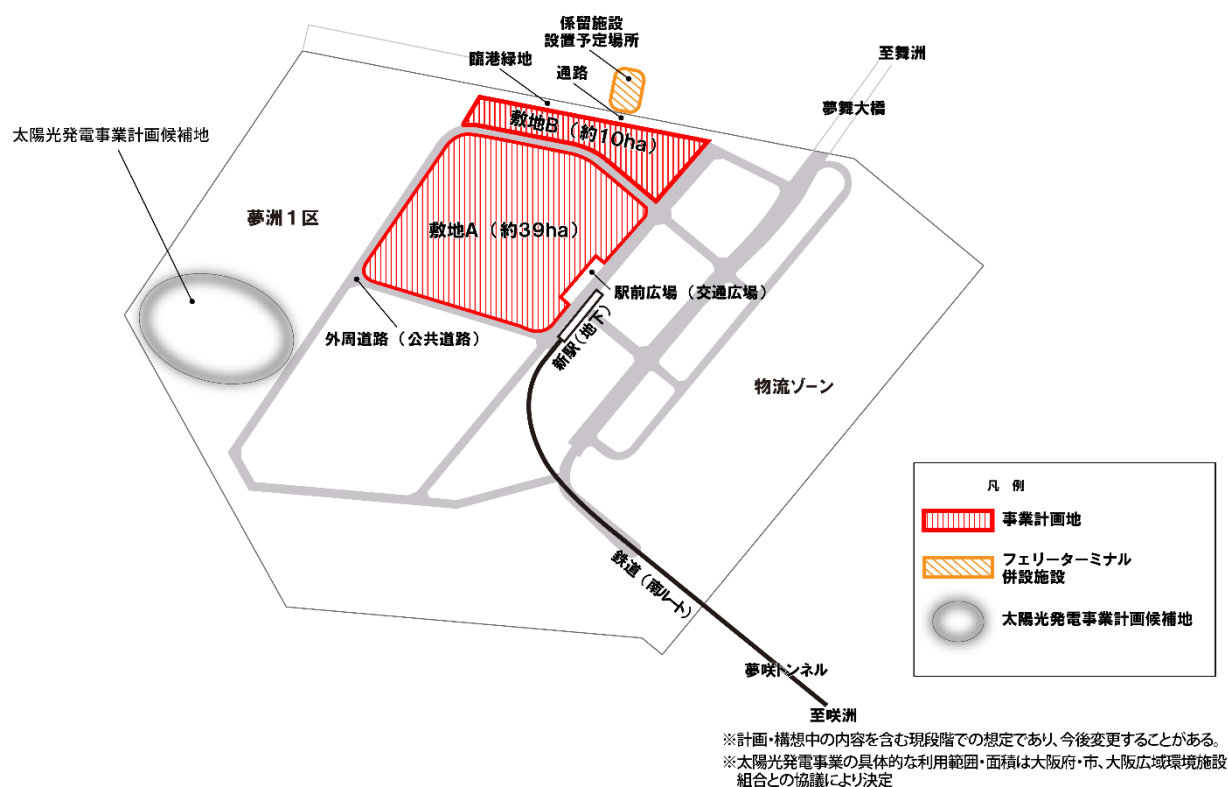


図1.2.3 本事業の対象範囲

(3) 土地利用計画

開発コンセプト「結びの水都」の4つのテーマ「大阪・関西を世界とつなぐ関西ゲートウェイ」、「ここにしかない最高のエンターテインメント」、「未来を創出するイノベーション」、「大阪の発展を象徴する水」に基づき、夢洲のポテンシャルを活かす4つのゾーンを設定し、異なる特徴を有する各ゾーンが他のゾーンと連携し相互作用を誘発するような計画とする。

1. 「関西ゲートウェイ」ゾーン

新駅などの多くの来訪者が集まる交通拠点を起点に、大阪・関西及び日本の「観光ゲートウェイ」として送客施設やエンターテインメント施設などを配置し、更なるエンターテインメント体験を求める来訪者をI R内部へ誘引するダイナミックな空間構成とする。

2. 「イノベーション」ゾーン

MICE 施設を中心にイノベーション創出につながる施設を配置し、新たなビジネスの創出を促す、付加価値創造のための拠点とする。

3. 「ウォーターフロント」ゾーン

海に囲まれた立地という夢洲の最大の特徴を生かし、来訪者に豊かな水の風景によるうるおいと安らぎを与え、大阪・関西の新しいパブリックスペースとして多くの人が集い、憩う空間とする。

4. 「結びの庭」ゾーン

上記3つのゾーンに囲まれた敷地中央部にある大規模なオープンスペースであり、隣接するゾーンによる多様な体験の表出、混ざり合い、相互作用を生み出しながら、大阪I Rでしか体験できない魅力的な空間を創出する。

(4) 施設配置計画

計画建築物の配置計画は、表1.2.2、図1.2.4に示すとおりである。

主要な用途は展示場、集会場、宿泊施設、遊技場、劇場、飲食・物販店舗、バスターミナル、観光案内所、フェリーターミナル、美術館、エネルギーセンター、駐車場等である。駐車場は約3,200台分を整備する計画である。

表 1.2.2 施設一覧（計画概要）

エリア		施 設	主要用途
敷地 A	関西ゲートウェイゾーン	MUSUBI ホテル	宿泊、飲食、物販、駐車
		関西ツーリズム センター	旅客・物資等のバス乗降、観光案内所、物販
		MGM 大阪	宿泊、カジノ、劇場、飲食、物販、店舗、駐車場
	イノベーションゾーン	MICE 施設（国際会議施設、展示等施設）	展示、集会、飲食、物販、駐車
		エネルギーセンター	事業地内への電力供給等
	結びの庭ゾーン	結びの庭	屋外空間、飲食
敷地 B	ウォーターフロントゾーン	関西アート&カルチャーミュージアム・フェリーターミナル	美術鑑賞、飲食、物販、船舶乗降待合い
—	係留施設（フェリーターミナル併設施設）		船舶の入出港、停泊、旅客・物資の船舶乗降等
夢洲 1 区	太陽光発電設備		事業地内への電力供給等



図 1.2.4 事業計画地内の施設配置図